

富士紀行 (44) 富士山麓の旧軍史跡探訪

富士山直下で、微少な低周波地震が平成12年9月から12月にかけて観測史上最多レベルにまで活発化し、火山活動との因果関係が注目されている。平成13年に入って地震回数は一時に比べ少なくなっているが、多くの専門家は富士山が活動期を迎えているとの見解を示し、防災対策の検討を急ぐべき、と提言している。(静岡新聞朝刊13/1/15)

富士の裾野は、古来より練武の地であることは、既に富士紀行23号記載の通りであるが、旧陸軍関連の史跡等を管見したい。

① 陸軍廠舎

● 板妻廠舎

陸軍板妻廠舎跡には、静岡県を隊区とする陸上自衛隊第34普通科連隊等が所在している。この34連隊は、静岡の郷土部隊であった旧軍の歩兵34連隊と奇しくも同一のナンバーである。歩兵34連隊は軍神橋中佐が所属していたことで有名であり、その故を以て、板妻駐屯地の資料館には橋中佐関連の資料等が数多く展示されており、見学者が引きも切らない。

● 滝ヶ原廠舎

明治42年から昭和20年までの間、「滝ヶ原廠舎(陸軍演習部隊)」として使用された。現在は、富士学校富士教導団隷下の普通科教導連隊や110施設大隊が所在している。

② 陸軍重砲兵学校富士分教所 現陸上自衛隊駒門駐屯地

駒門駐屯地には、陸軍重砲兵学校の分校が置かれた。陣地重砲に関する研究及び教育に便するため、昭和17年1月以来長期野営の名目をもって学校の主力を富士裾野演習場の駒門廠舎に移駐していたが、18年3月学校令が改正されて富士分教所が設置されることとなり、18年8月開設された。(三保分教所は、12月設置)校長は富士分教所に位置して浦賀本校及び三保分教所を指揮した。陣地重砲の教導聯隊第2大隊が駒門に配置された。

現駐屯地の特科連隊や、戦車、高射大隊の車両整備工場は当時の厩舎(馬小屋)を改修して使用している。台風が近づくと倒壊するかも知れないと担当者は冷や冷やすると言う代物であるが・・・。

(参考:富士学校特科部作成の「砲兵沿革史」)

③ 野戦重砲兵連隊跡 三島市文教町

1919年及び1920年に野戦重砲兵第二、三連隊が移駐し、野戦重砲兵第一旅団が三島市文教町の現在日大、小・中・高校のある地区に編成された。15cm榴弾砲部隊であり、輓馬（ばんば）編成（2連隊）、自動車編成（3連隊）の両編成があった。三島北小、北中学校の門柱は往時のものであり、歩哨舎も残存している。記念に植えられた銀杏並木が素晴らしい。2連隊は、上海、支那事変（この言葉を使うと嫌われる向きもあるが、当時の正式名称であるので、悪しからず）に参加、16年関東軍特別演習に動員、3年余り防衛に任じ20年3月内地転用終戦、3連隊は、支那事変参加、大東亜戦では、マレー攻略作戦、ビルマ進攻作戦、インパール作戦等に従事20年2月解隊廃止された。（参考：「日本陸軍兵科連隊」「史跡が語る静岡の15年戦争」）

④ 沼津兵学校 沼津市大手町（記念碑が、城岡神社境内）

大政奉還後、徳川家は駿府移駐となったが、旧幕臣安部、江原等によって、明治元年沼津城に陸軍士官の養成を目的とした沼津兵学校が設置された。西周を頭取とし、各界の俊秀を教官に迎え、当時の日本で最高の教授陣であったと言われる。歩兵、騎兵、築城の3科に分け、特に数学を重視した。明治4年兵部省の所管となり、明治5年(1872)に陸軍兵学寮に併合され、その在校生は教導団に編入された。大阪兵学寮改め陸軍兵学寮は、明治5年東京に移り、後に陸軍士官学校、陸軍幼年学校、教導団へと分化する。

（参考：日本の近代9「逆説の軍隊」「日本歴史大事典」、
「富士・・・沼津・・・歴史散歩」（静岡新聞社刊））

（以下、富士紀行(45)に記載）

- ⑤ 陸軍少年戦車兵学校
- ⑥ 神風特別攻撃隊兵士像
- ⑦ 陸軍歩兵第一連隊八勇士の碑
- ⑧ 東富士演習場内の史跡等